

高佐ありささんお弁当コンテスト入賞

全国の愛情お弁当コンテストで東方中の高佐ありささんが特別賞を受賞しました。具沢山で色とりどりのお弁当を作った高佐さんは「自信になった。これからも作りたい」と話していました。



自動車整備振興会が下敷き等を寄贈

2月23日、自動車整備振興会小林支部より交通ルール下敷き・防犯定規各440枚を寄贈いただきました。下敷き等は小学校新1年生に配布予定。田中節夫支部長は「子供たちの教育に役立ててもらいたい」と話していました。



2団体をNPO法人に認証

2月25日、2団体のNPO法人認証式が行われました。「おもしろかたの森レスキュー隊（永田文一代表）」は地域の森林の保全活動を通じて、地産地消、地域循環を目指すと共に、高齢者や障害者等を援助しながら働く喜びと生きがいのある環境づくりに貢献することを目的に設立。また、「赤とんぼ（山口義輝代表）」は地域環境美化に関する事業を行い、小林市のまちづくりの推進に寄与することを目的として設立され、それぞれ認証されました。



▲おもしろかたの森レスキュー隊



▲赤とんぼ

県民体育大会スキー競技で好成績

2月13日開催の冬季県民体育大会で、市の代表チームがスキー競技団体の部で準優勝、個人でも優勝・準優勝・3位を獲得。これを受けて神戸節夫さんは「市のスキー発展に努めていきたい」と話していました。



写真は講演する網野教授。市では、2012年度から就労と子育て支援としてファミリーサポートセンターを設置します。

大人が子どもを人として育てる力を育もう

3月5日、子育て支援講演会が文化会館で開催されました。東京家政大学の網野武博教授が「子どもの心・子育ての心」と題して講演。網野教授は「子どもに対するまなざしや言葉かけなど心理的栄養がないと育むことはできない。子どもが大人になった時に育ての心を提供できることが必要」と話しました。

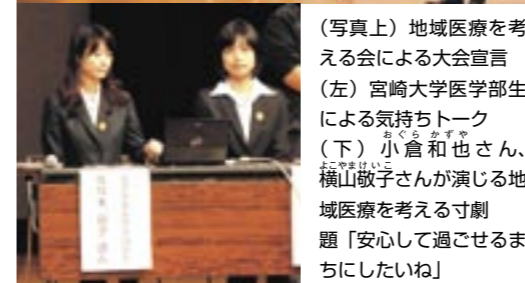


「体育館は学校と地域を結ぶ重要な役割を果たす施設。みんなで三松中の輝かしい歴史を築いてほしい」とあいさつする日高和典校長。

学校と地域を結ぶ重要な役割を三松中の新体育館が完成

3月10日、三松中学校の新体育館が完成したことに伴う落成式が行われました。体育館は延べ床面積が902㎡で鉄筋コンクリート造。生徒会長の立山勝希さんは「これから多くの活動ができると思うと喜びと感謝でいっぱい。いい思い出をたくさんつくりたい」と喜びの言葉を述べました。

地域の医療をいっしょに育てよう 地域医療を考える会が講演会



(写真上) 地域医療を考える会による大会宣言 (左) 宮崎大学医学部生による気持ちトーク (下) 小倉和也さん、横山敏子さんが演じる地域医療を考える寸劇 題「安心して過ごせるまちにしたいね」



2月27日、市文化会館で地域医療講演会が開催されました。城西大学の伊関友伸准教授が「まちの病院をなくさないために」と題して講演。医療現場の過酷な現状等を紹介し、「住民を含めた病院に関わる全ての人が、医師の立場に立って地域の医療を考え、行動することが必要」と話しました。宮崎大学生による「気持ちトーク」では、野尻中央病院で集めた患者や医療者などの様々な気持ちを紹介。最後に地域医療活動を推進する宣言を高らかに読み上げました。



地域医療の担い手へ 準看護学校で卒業式

3月3日、社団法人西諸医師会立小林准看護学校で卒業式が行われました。20名の生徒が看護師としての決意を胸に、親しんだ学舎に別れ。高崎直哉学校長は、「看護職という仕事に自信と誇りを持ち、心の痛みが分かる優しい医療スタッフを目指してください」と式辞を述べました。



卒業生を代表して、薬山美咲さんが「この学校で学んだ誇りを胸に1人の准看護師として前進していきます」と決意を語りました。



ハーモニカの演奏に合わせて合唱が起こるなど盛り上がった発表会。集まった多くの来場者の表情は生き生きと輝いていました。

生涯を楽しもう！ 老人クラブが生き生き大会

3月1日、第14回小林老人クラブ連合会生き生き大会が百歳会館で行われました。老人クラブの会員38組がカラオケや舞踊、社交ダンスなど、日頃の練習の成果を披露。柘山林一会長は「野尻、須木からの参加もあった。みんなの活動を知って、交流できるよい機会に」と挨拶しました。